

神秘学ポエジー 風遊戯
photopos
112

【神秘学ポエジー～風遊戯 第224集】 photo ヴァージョン

photopos 2776-2800

《2022.4.14～2022.5.9》

神秘学遊戯団



ことばは
はじめ
うた
だったのに

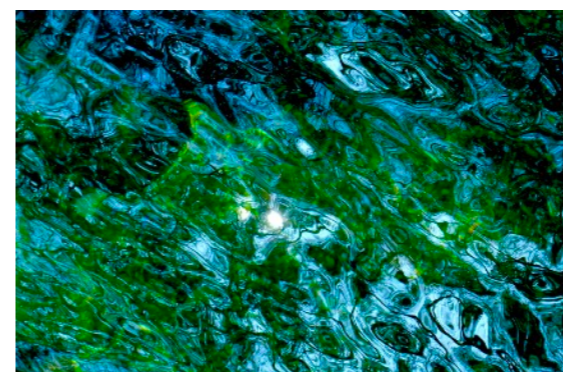
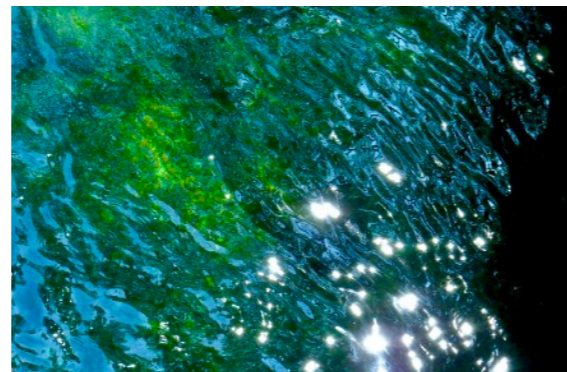
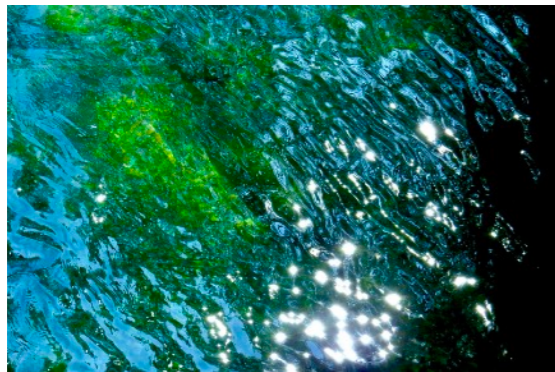
いつのまにか
ことばから
うたが
なくなってしまった
から

ことばに
うたを
とりもどす
ひみつをさがす

ものは
はじめ
いのち
だったのに

いつのまにか
ものから
いのちが
なくなってしまった
から

ものに
いのちを
とりもどす
ひみつをさがす





かたちが
かたちになるまえの
カオスに身を投じる勇気があれば

飼い慣らされた心が
殺しつづけてきた時を
巻き戻すことができるだろうか

想像力よ
共振せよ！

あらゆる意識の深みで
紡がれてきた時に
自由をもたらすために

わたしが
わたしになるまえの
闇に身を投じる勇気があれば

わたしという檻のなかで
忘れ去られてきた歌を
取り戻すことができるだろうか

遙かな歌よ
共振せよ！

あらゆる存在の深みで
夢みられてきた歌を
歌いはじめるために





光のことは
光となって
光のなかでしか
解けないものがある

闇のことは
闇となって
闇のなかでしか
解けないものがあるのに

光のことを
光のまま
闇のなかで

闇のことを
闇のまま
光のなかで
解くことはできない

光のことは
光のなかで
闇のことは
闇のなかで解くのだ

そして
光と闇は
みずからを解くことで
はじめて
変容しはじめる





わたしのなかで
わたしは話す

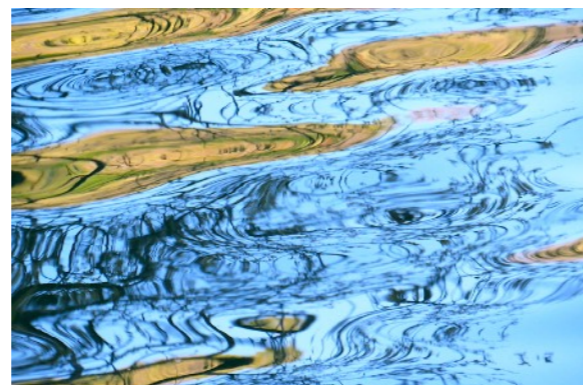
わたしのなかの
もうひとりの
わたしと話す

わたしのなかで
わたしでない
だれかが話す

わたしのなかの
わたしでないだれかと
わたしは話す

わたしは
わたしのなか
わたしでないのか

わたしは
わたしたちは
話しつづける





生まれてくることは
出会うということ

世界に
そして
あなたに

そのすべての偶然を
どれだけ味わえるか

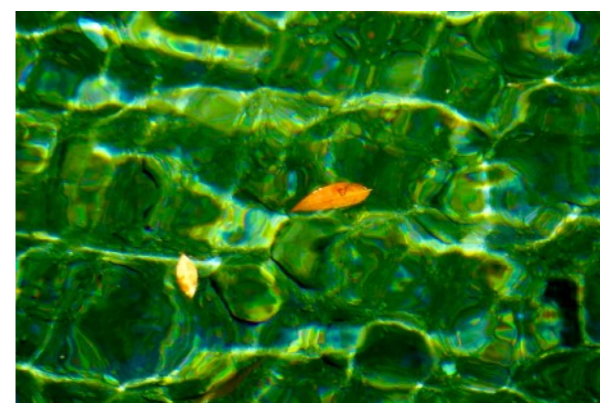
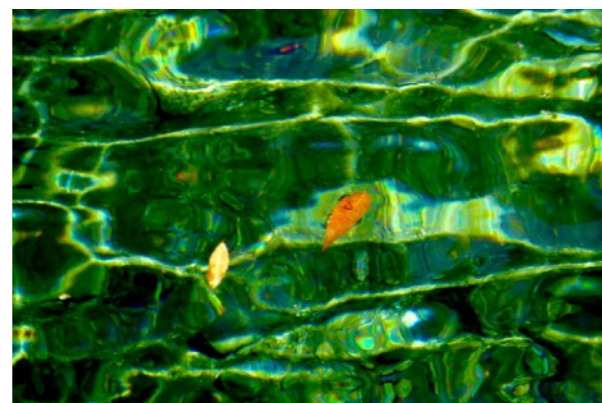
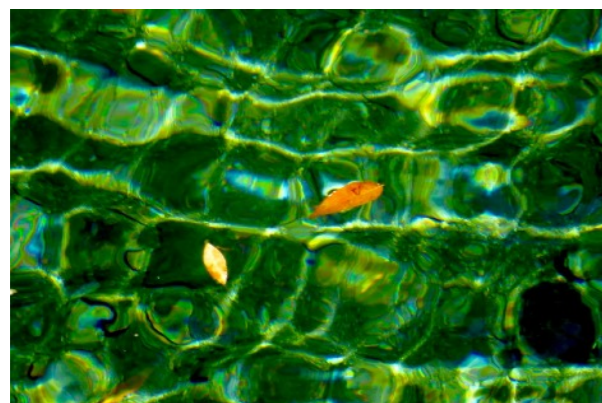
それが
わたしという
運命を育てていく

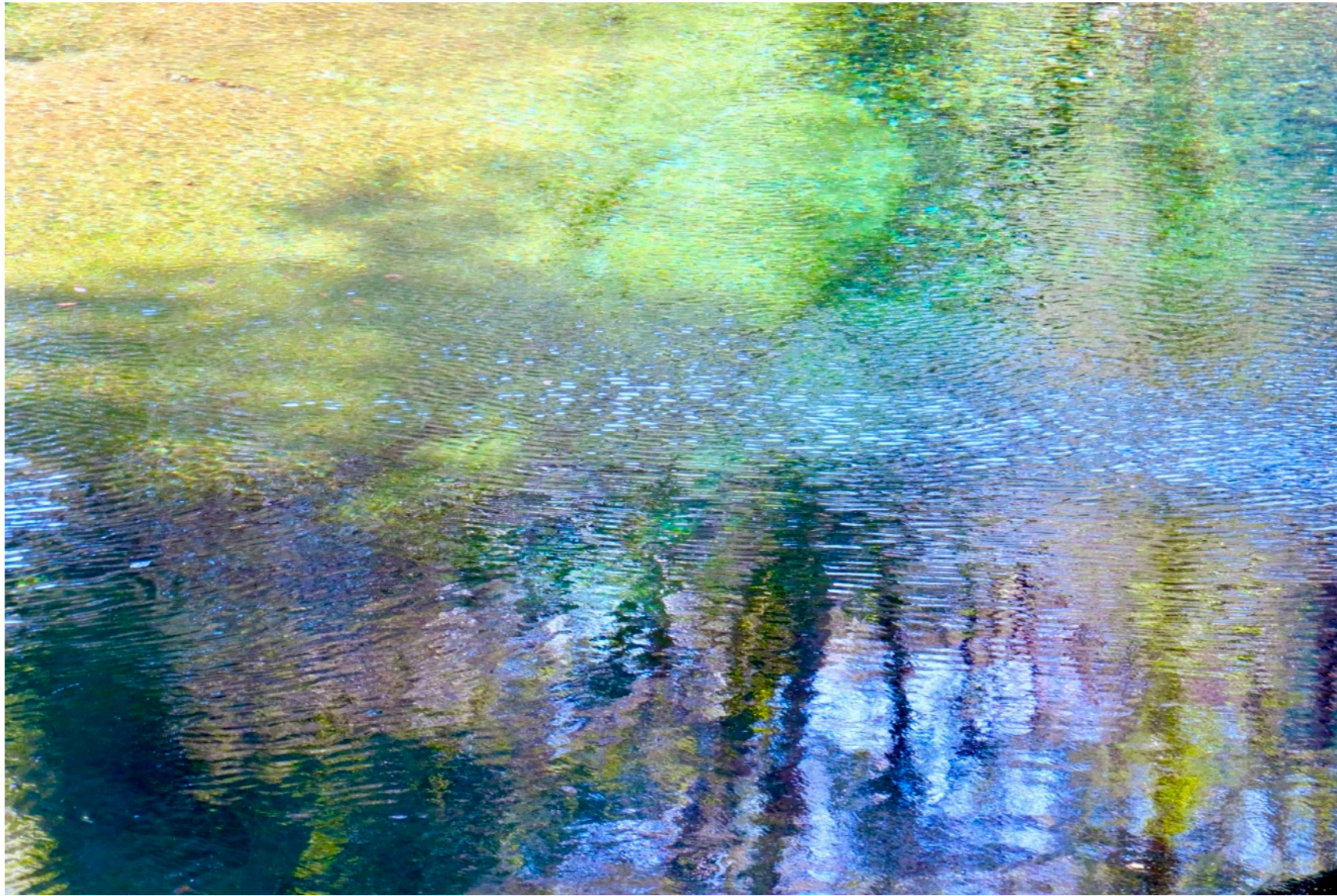
いのちをはこび
いのちをつくる

わたしのなかに
世界を食べ
世界に食べられ

わたしのなかに
あなたを食べ
あなたに食べられ

いのちはめぐり
いのちはいきる





顔の奥には
不可視の顔があり
言葉の奥には
語られぬ言葉がある

その顔を見
言葉を聴きとるには
秘密のヴェールを外す
技を身につけねばならない

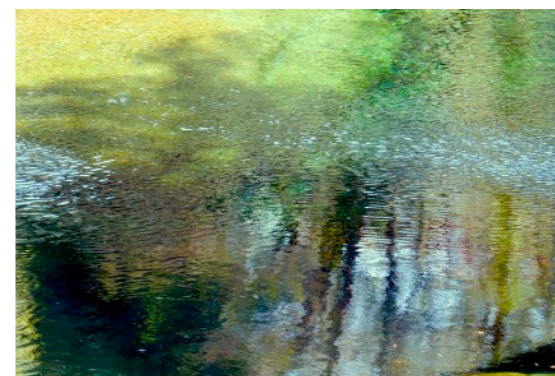
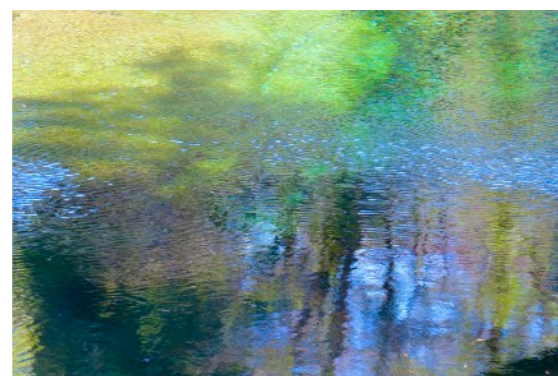
それはみずからの
不可視の顔
語られぬ言葉のヴェールをも
外すということにほかならない

そこにはみずからが
鏡となることが求められる

変えるためには
みずからが
変わらねばならないように

知るためには
みずからを
知らねばならないように

鏡よ
鏡
映らぬものこそ
映しだせ
語られぬ言葉にこそ
秘かに語らせるのだ





変わらないものは
なにもない

変わりつづけるものを
変わらないもので
測りつづける者よ

変わりつづけるものが
見えなくなっているのか

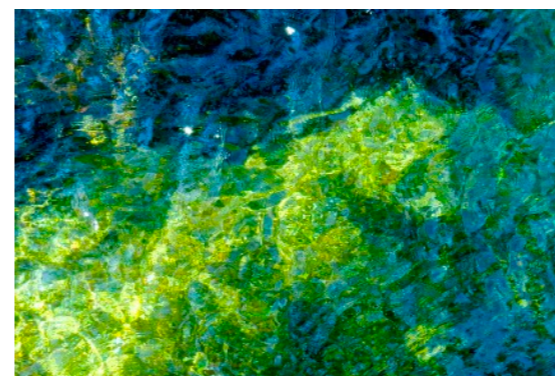
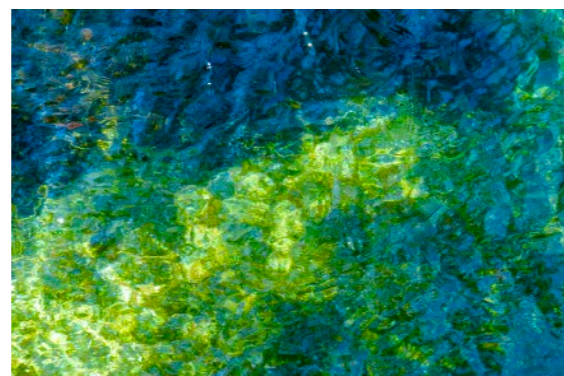
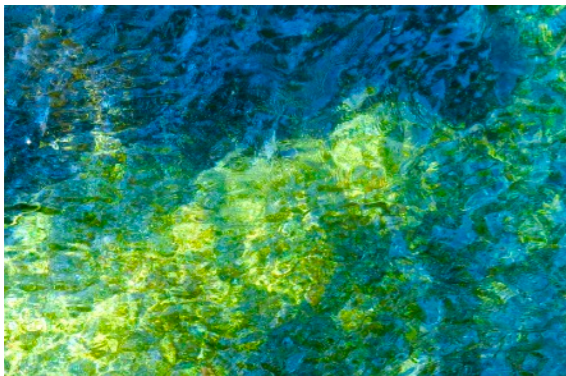
見られているものも
変わりつづけ
見る者も
また変わりつづける

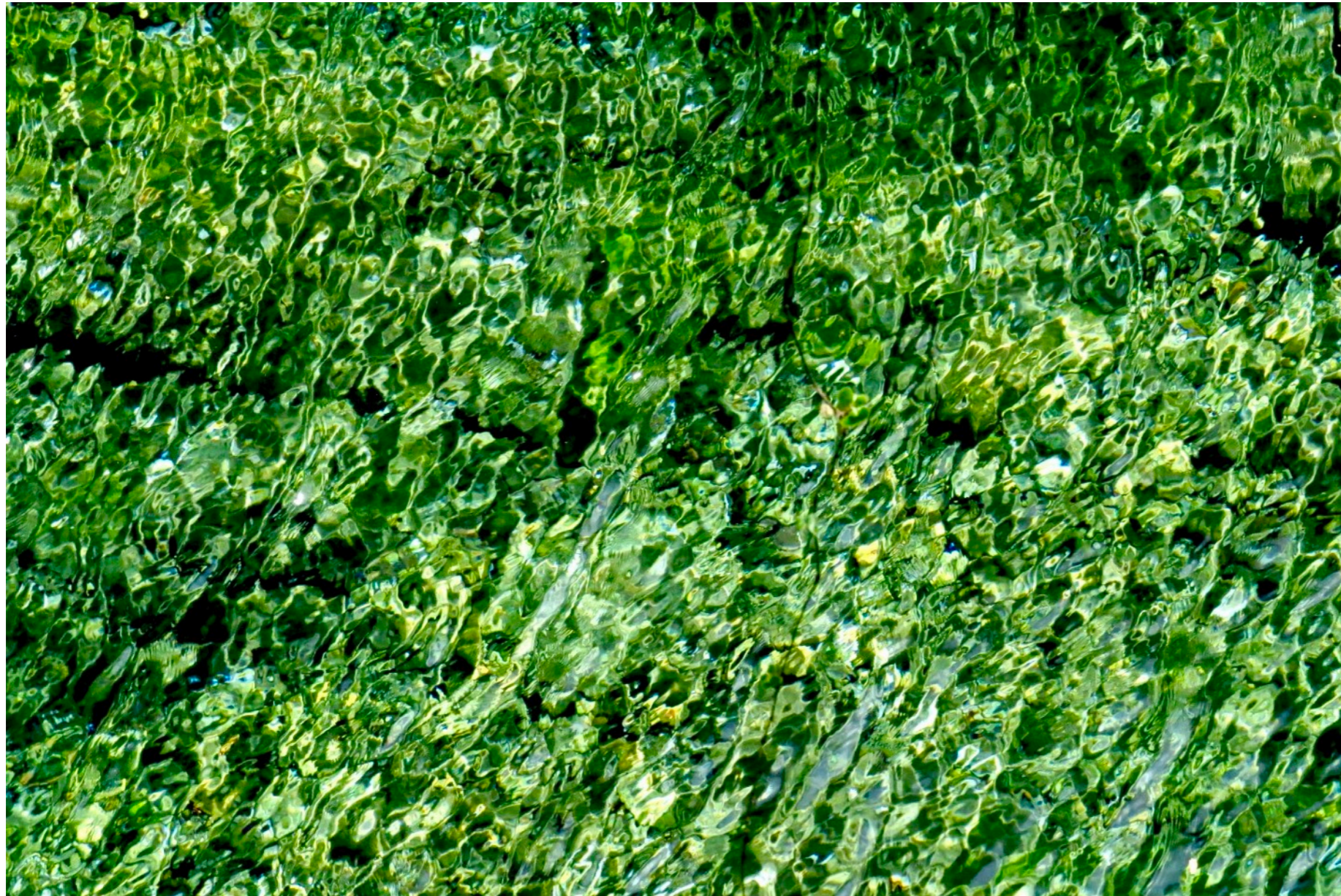
変わりつづけること
そのことにこそ
真実はある

変わらないものは
なにもない

わたしも
そして世界も
変わりつづける

変わりつづけるからこそ
わたしも
そして世界も
存在することができるのだ





意味から
自由になるために
意味そのものを問う

意味そのものを
問いつづけなければ
意味にとらわれてしまう

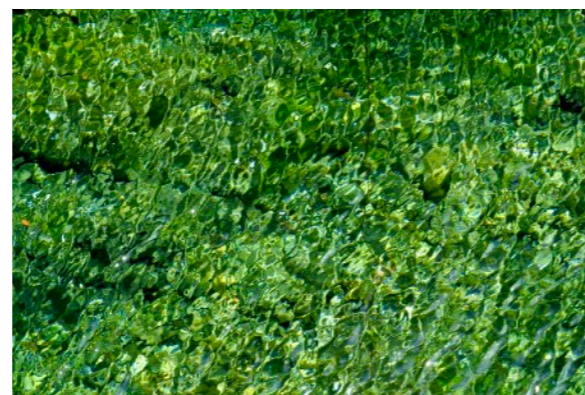
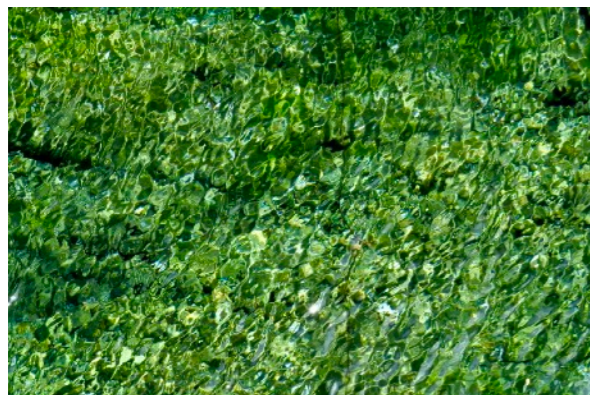
与えられた意味を生きると
その意味に閉じ込められるから

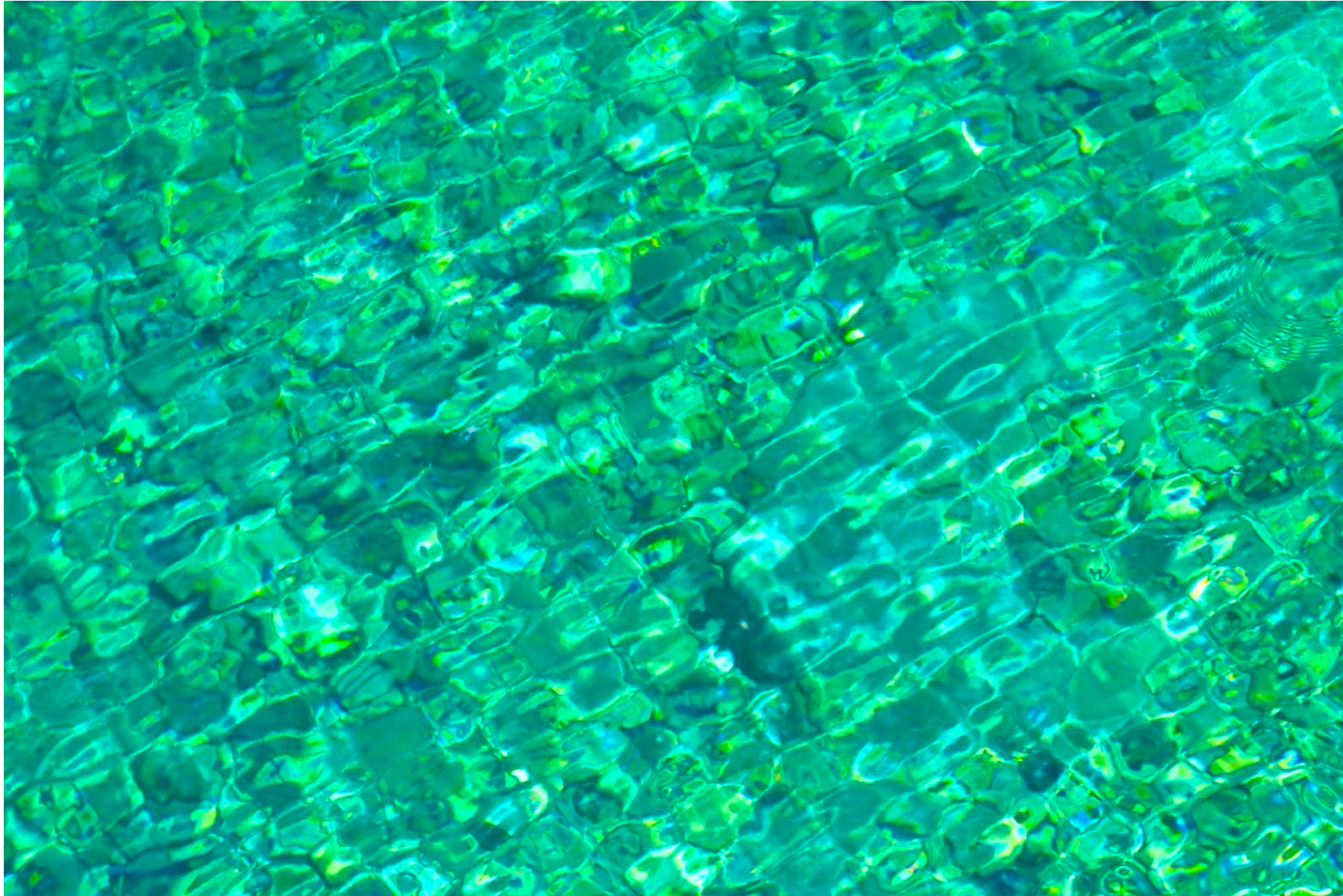
意味を生きるために
与えられた意味から自由になる

世界に意味があるのは
みずからそれに
意味を与えるからだ

私に意味があるのは
みずからじぶんに
意味を与えそれを生きるからだ

意味は
私の自由から生まれてきたとき
謎のように永遠の姿であられる





宇宙という
不思議の織物は

ひとつ
ひとつ
かけがえないもので
織りなされ

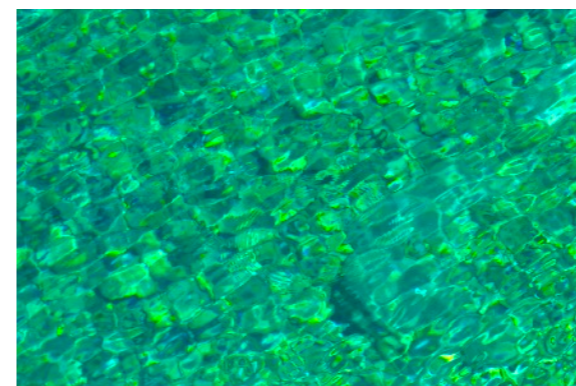
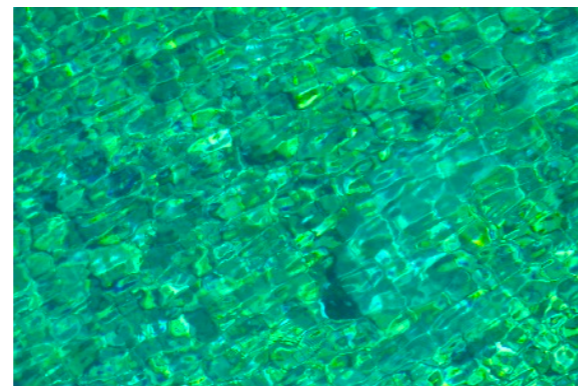
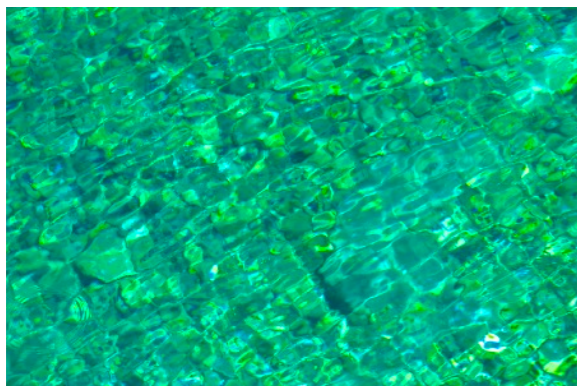
ひとつ
変われば
すべてが
変わり

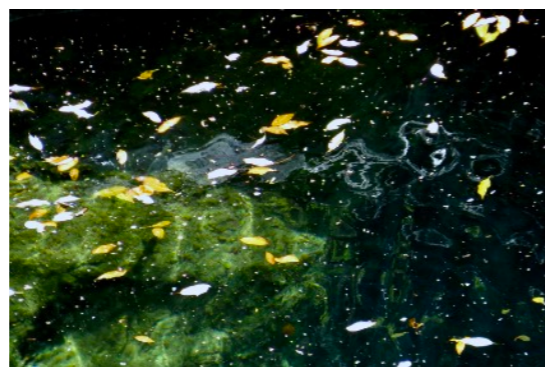
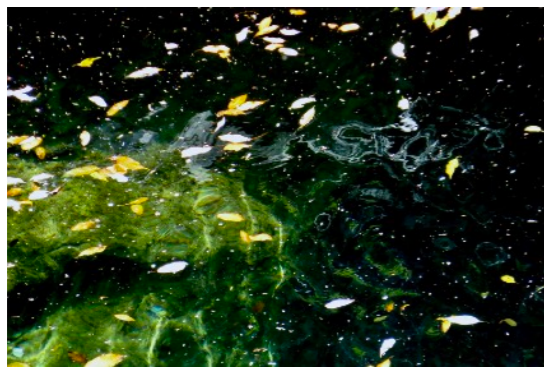
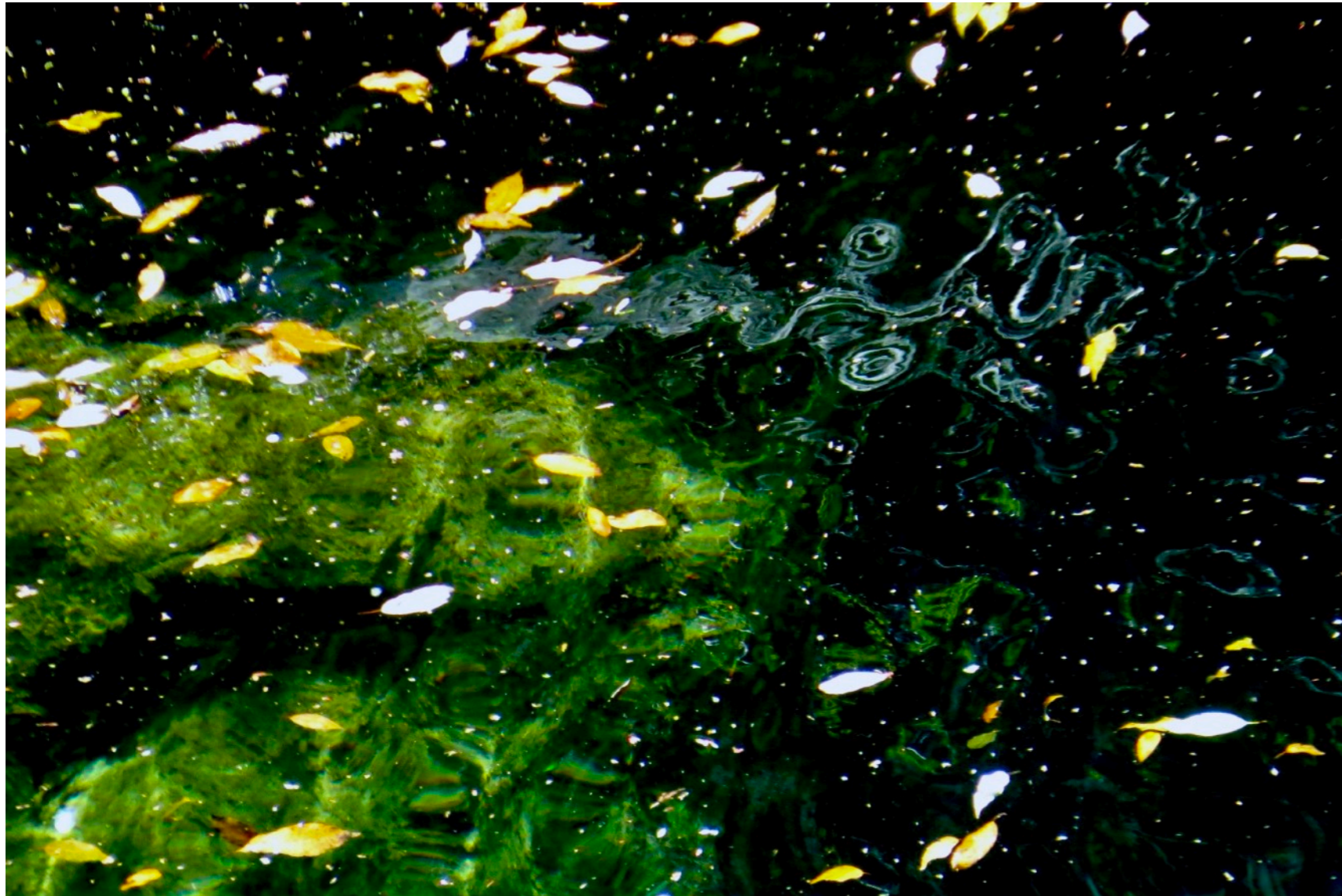
すべてが
変われば
ひとつも
また変わり

かたちは
生まれ
かたちは
育ち

そうして
宇宙は
たえず変幻し

すべての
ひとつは
ひとつのままに
響きあい





言の葉とは
不思議よな

声にもなれ
文字にもなれる

美しき声に
魅せられもし
怪しき声に
惑わされもする

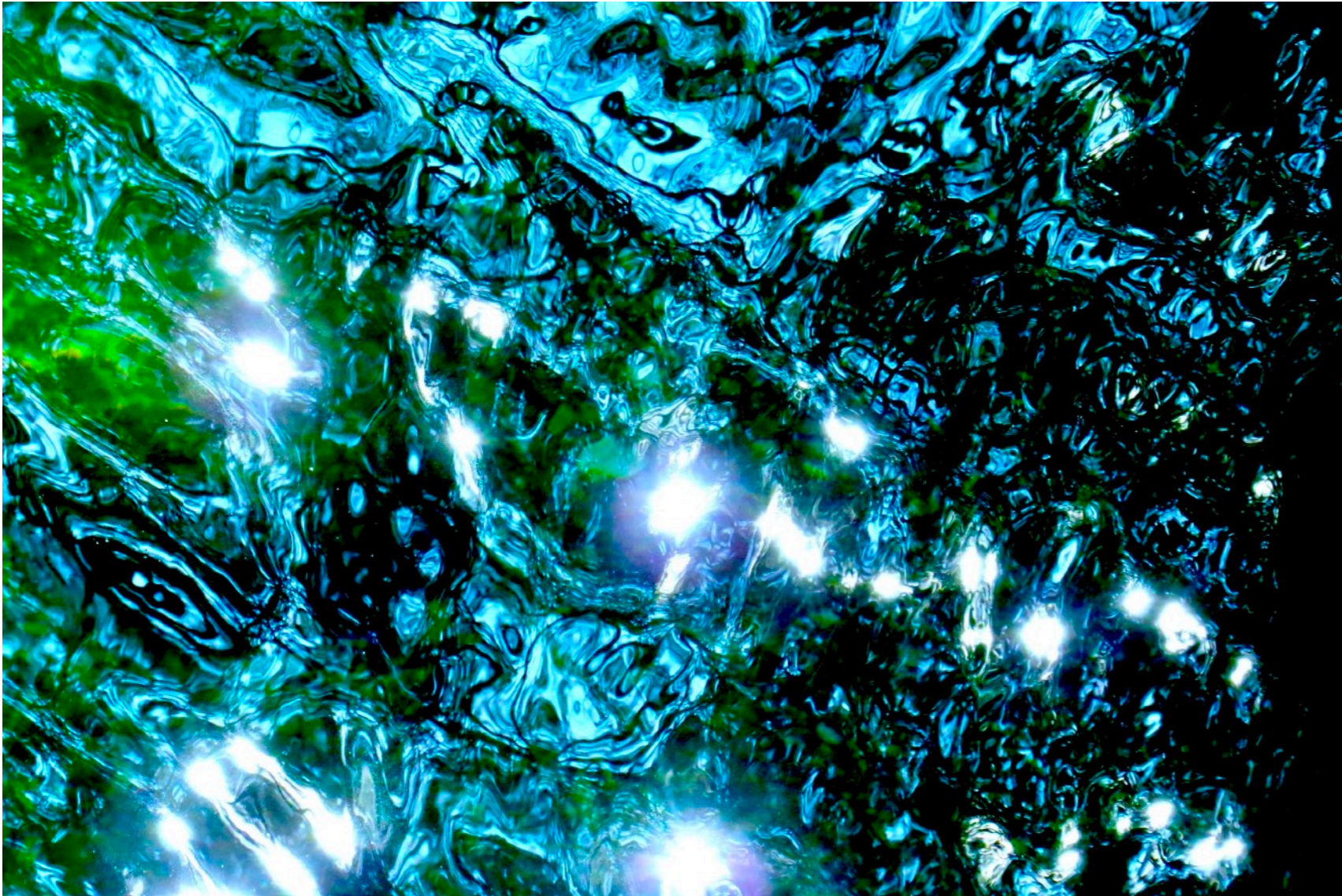
声をなくした
文字もあれば
声を舞う
文字もある

言の葉とは
不思議よな

何処より来たり
何処へと去る

だれもその
源さえ知らぬまま
話し歌い
文字を書く

もしや
言の葉こそが
われら人を
話し歌い
文字とするのやもしれぬか



奏でられたどんな音楽も
じぶんを奏でているように

描かれたどんな絵も
じぶんを描いているように

写されたどんな写真も
じぶんを写しているように

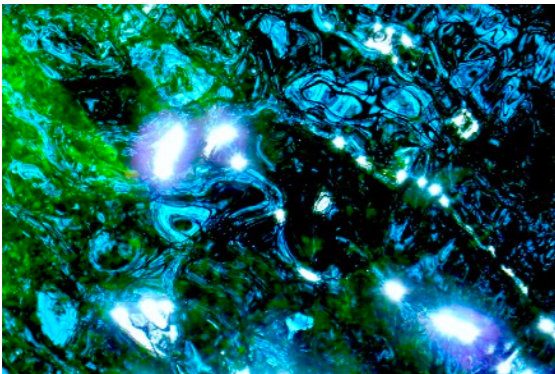
語られたどんな言葉も
じぶんを語り

作られたどんなものも
じぶんを作り

夢みられたどんな夢も
じぶんを夢みているから

じぶんに入ってくるものよりも
じぶんから出ていくものに
注意深くあることだ

それは光ともなり
闇ともなり
みずからを光へも
そして闇へも変えてゆく





境界にて

こちら側を光とし
向こう側を闇とするか

こちら側を闇とし
向こう側を光とするか

世界は容易に反転する

境界にて

夢を夢とし
現を現とするか

夢を現とし
現を夢とするか

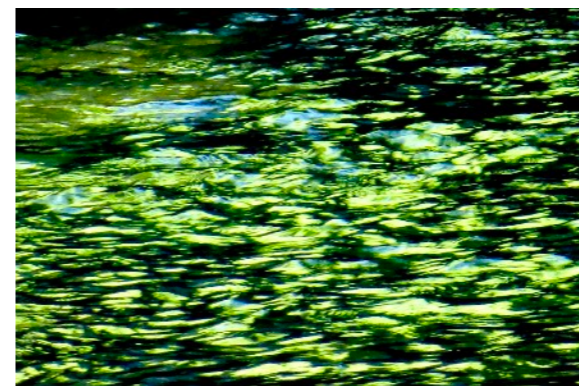
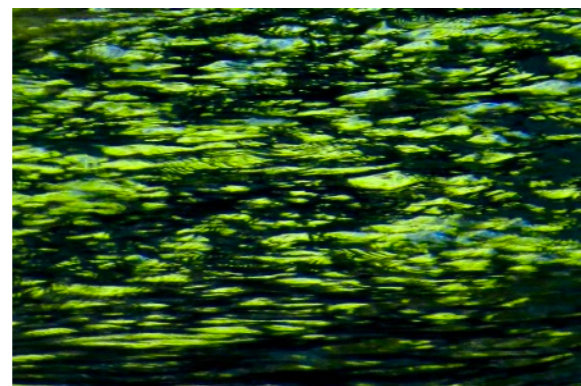
世界は容易に反転する

境界にて

我を善とし
他を悪とするか

我を悪とし
他を善とするか

世界は容易に反転する

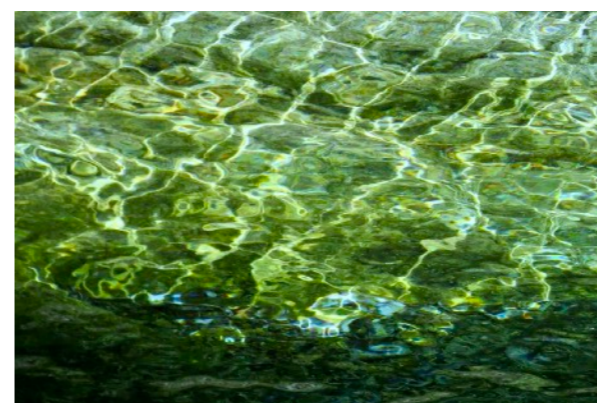


境界にて

生を実とし
死を虚とするか

生を虚とし
死を実とするか

世界は容易に反転する



世界は
幻だという

世界が
幻なのではない

世界を見る目が
幻なのだ

真実の世界は
ここにはないという

真実は
隠されているという

真実は
隠されてはいない

秘密を見ることが
できないだけだ

愛がないのではない
愛することができないように

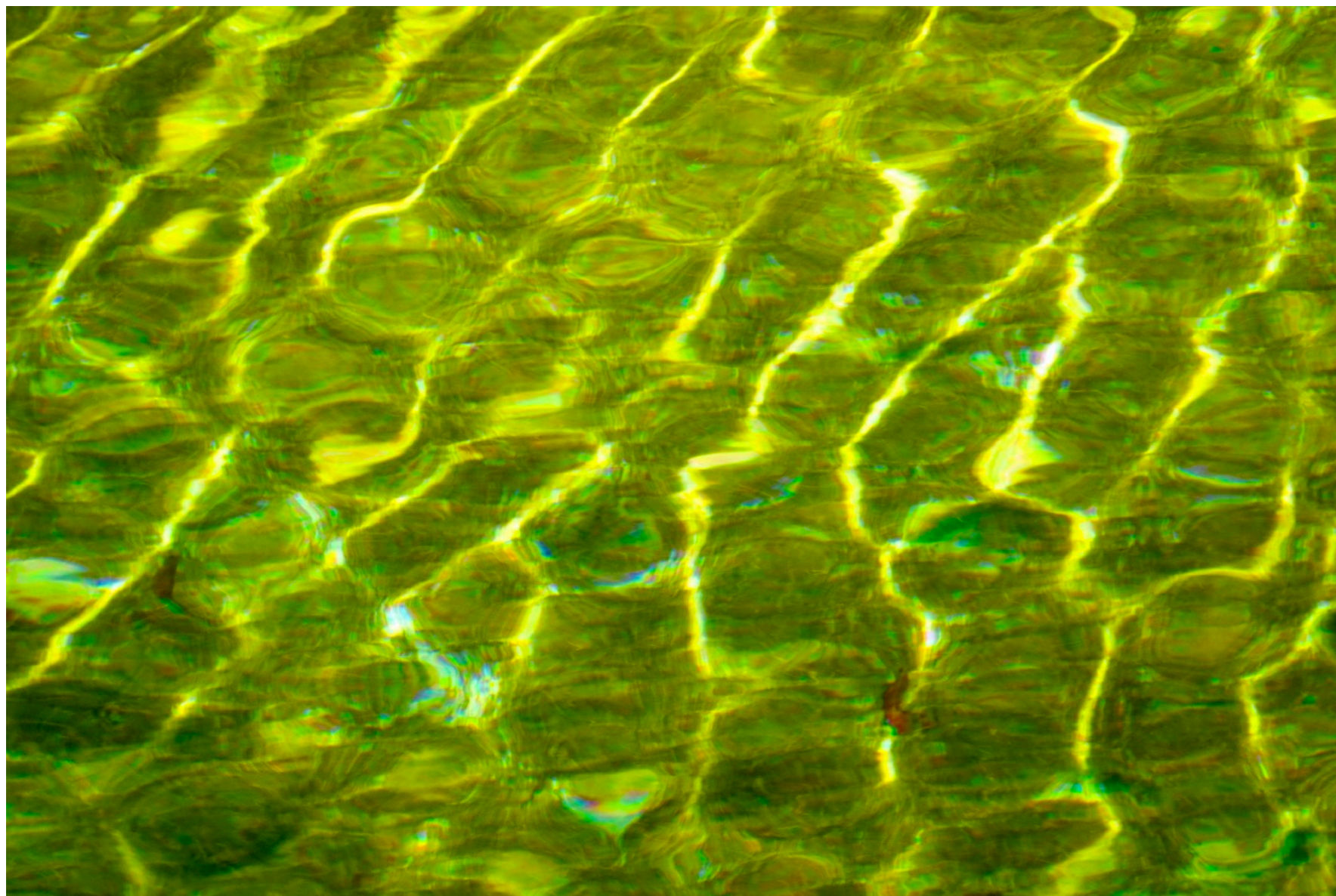
世界は
幻ではない

秘密は
開示されている

わたしたちそのものが
秘密である

わたしたちはみずからを
開示しなければならない

そのとき
世界の真実は現れる



その言葉は
誰が語るのか

ときに言葉は
言葉そのものが語る

言葉に憑依される如く
私は操られる
操られていることを知らぬまま

その考えは
誰が考えるのか

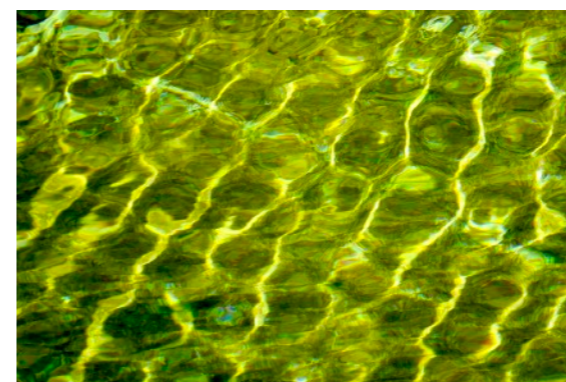
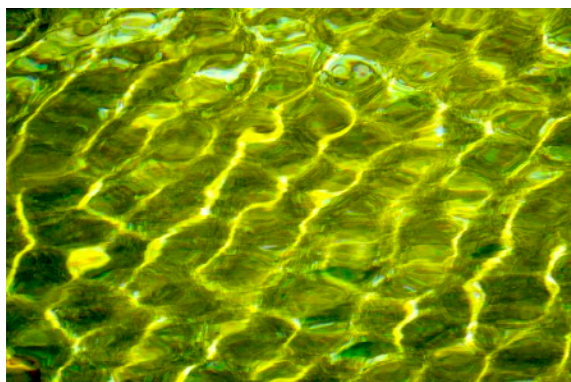
ときに考えは
考えそのものが考える

考えに憑依される如く
私は操られる
操られていることを知らぬまま

その歌は
誰が歌うのか

ときに歌は
歌そのものが歌う

歌に憑依される如く
私は操られる
操られていることを知らぬまま





空にも
道があるように

心にも
道はあるだろう

上には
天と光があり

下には
大地と水があり

水平に
ゆくときもあれば

垂直に
ゆくときもあるように

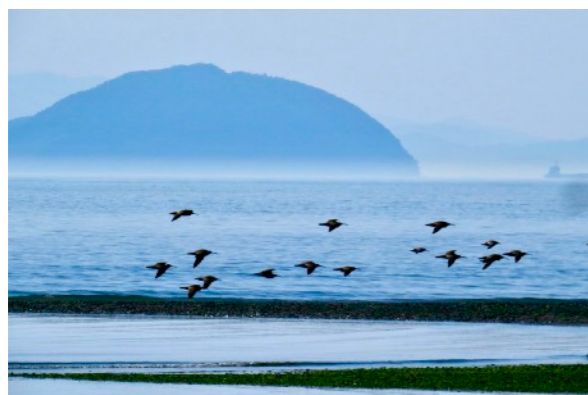
時にも
水平と垂直があり

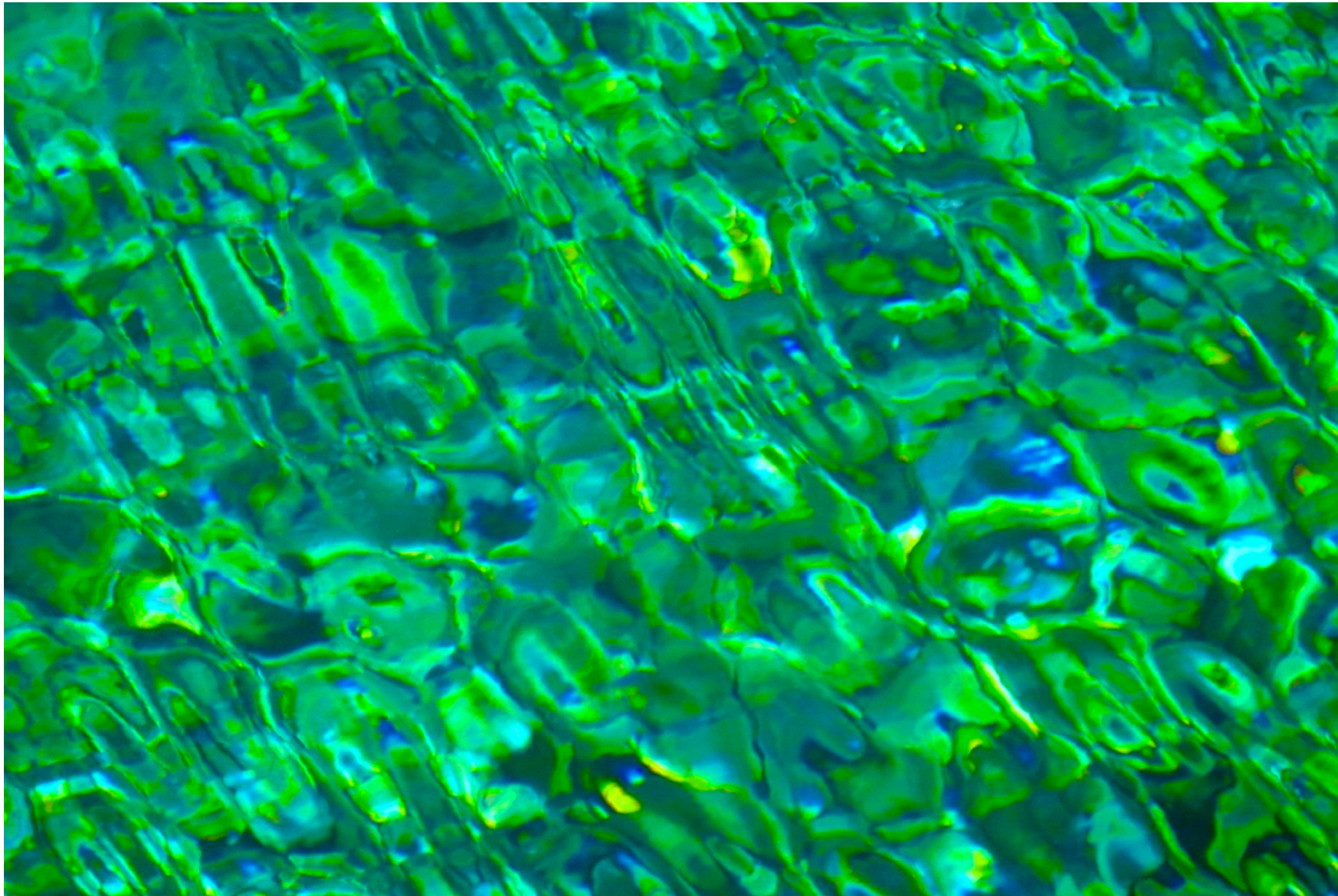
生死にも
水平と垂直があるだろう

はてさて
どの道をゆくか

地を歩き
空を見上げながら

わたしは祈り
わたしは問いつづける





時のめぐりは
ふしぎを紡ぐ

昔は昔
今は今

されど
ふたつは紡がれて
新たな模様を描きだす

時のめぐりは
わたしを紡ぐ

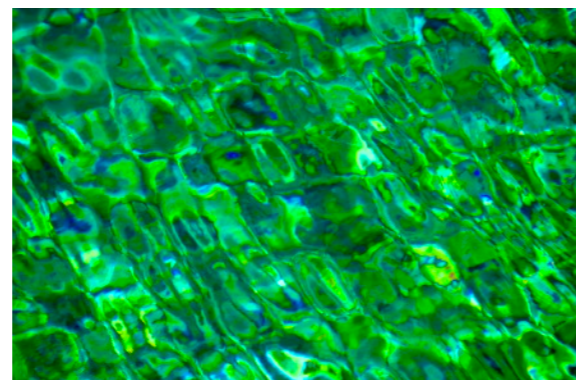
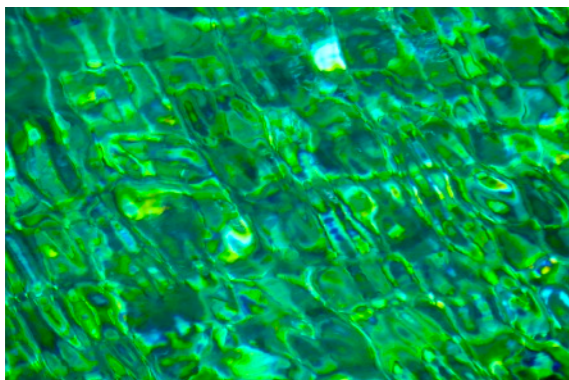
昔のわたしは昔のわたし
今のわたしは今のわたし

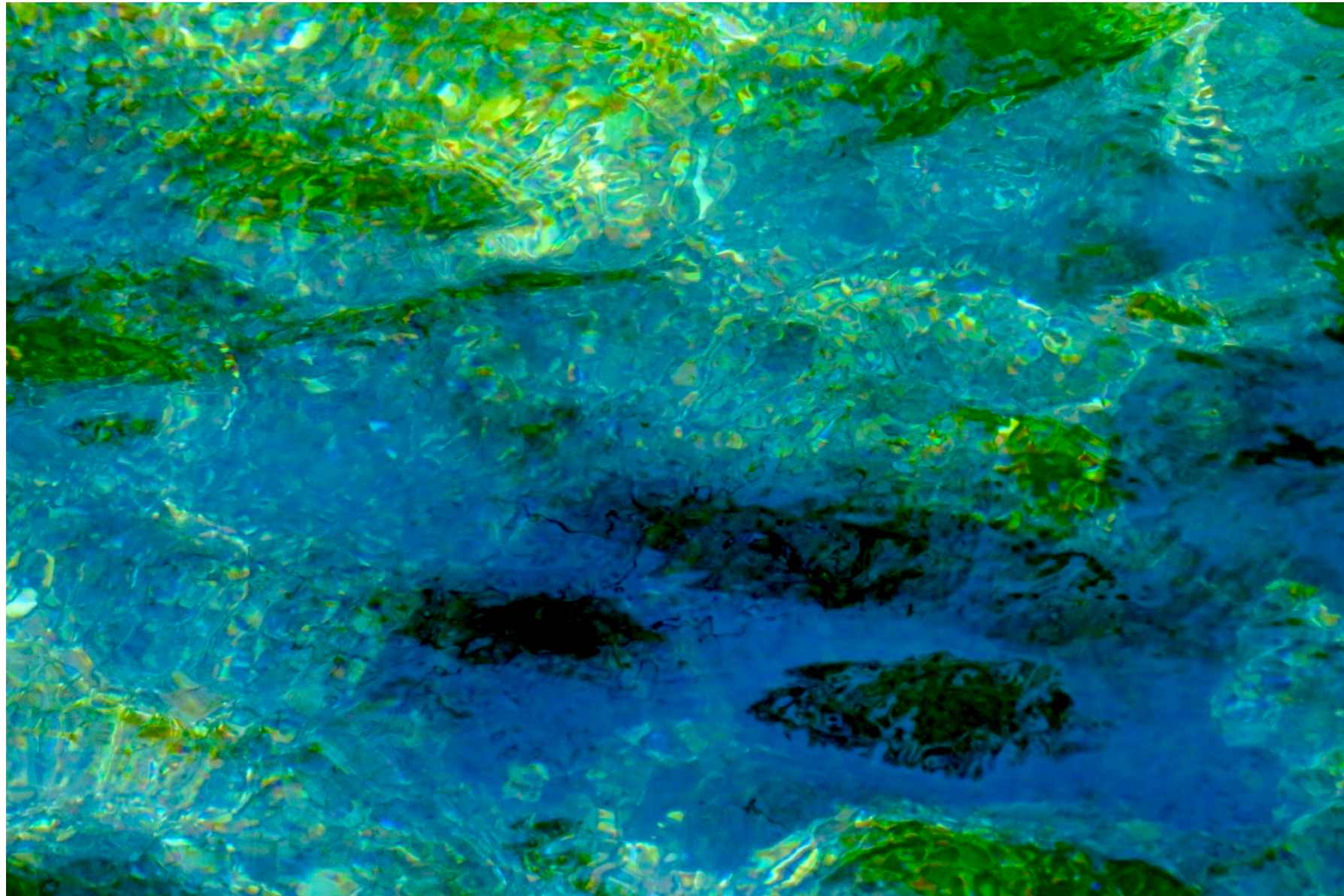
されど
ふたりは紡がれて
新たなわたしを描き出す

時のめぐりは
生死を紡ぐ

生き生き生きて
死に死に死んで

されど
生死は紡がれて
新たなたましいを描き出す





作る者は
作られる物と
秘密の関係を結ぶ

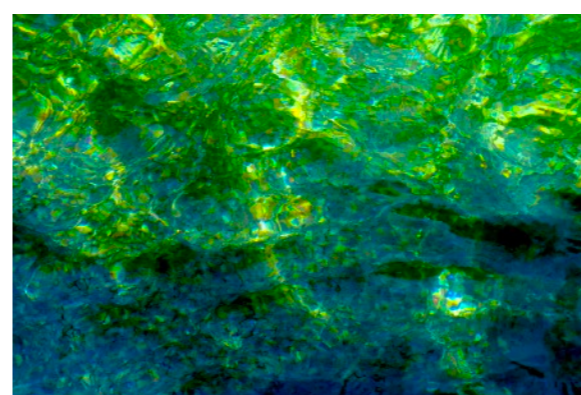
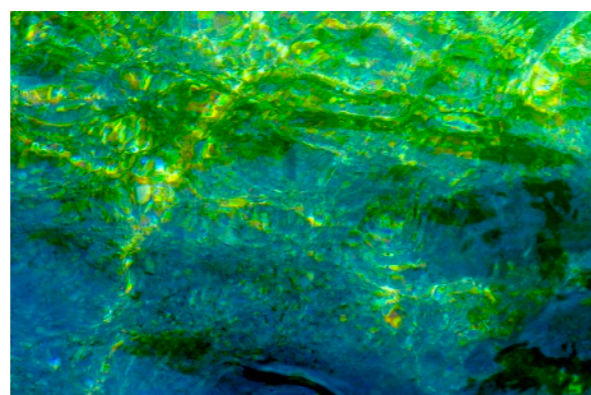
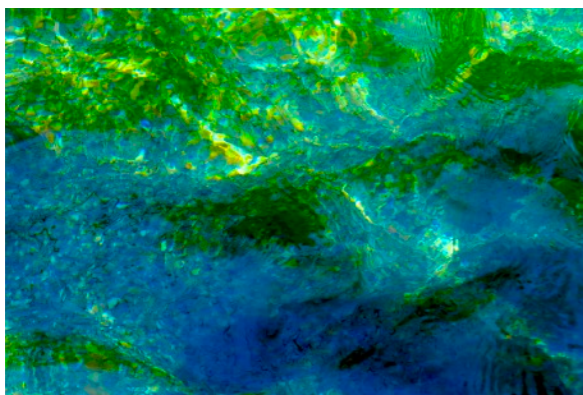
物は
ただ物ではないから
作る者は
物の深みへと
向かわねばならない

そこで
互いの魂は
契約を交わす

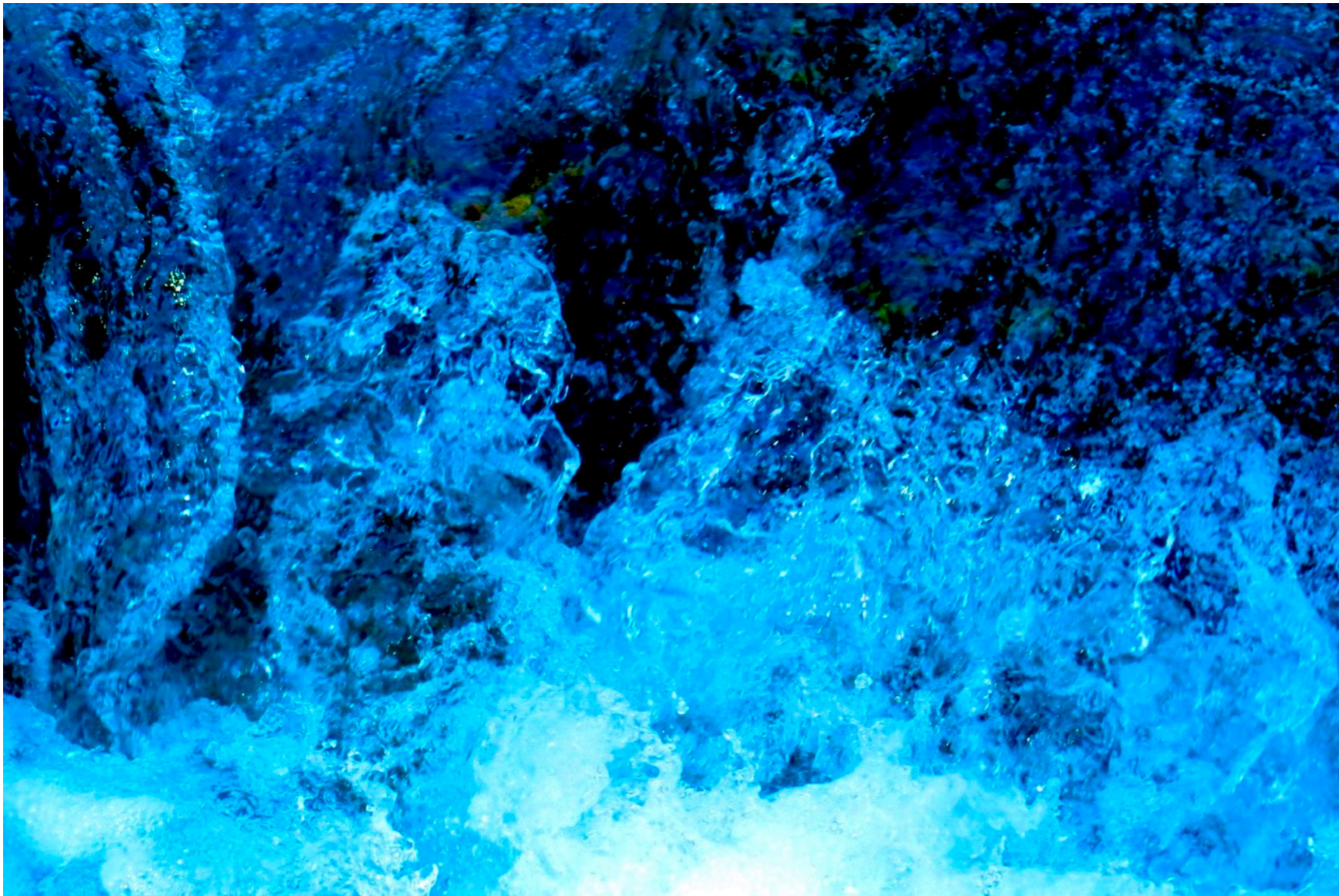
作る者は
畏敬と力と技をもって
作られる物の供犠に
見合うだけの責務を負う

秘儀の対称性が
そこでは守られねばならない
そうすることによって
人と物とは婚姻し
錬金術的変容が可能となる

そうした秘密のなかで
作る者は
みずからを作り
物によって作られてゆく



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて



ときに
思いは
水の如き姿で
噴出する

心にならぬ
心の如く

形にならぬ
形の如く

言葉にならぬ
言葉の如く

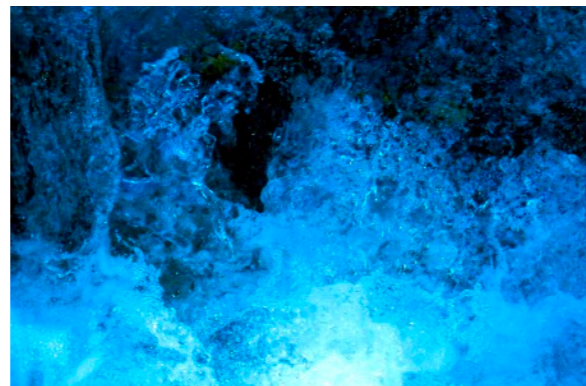
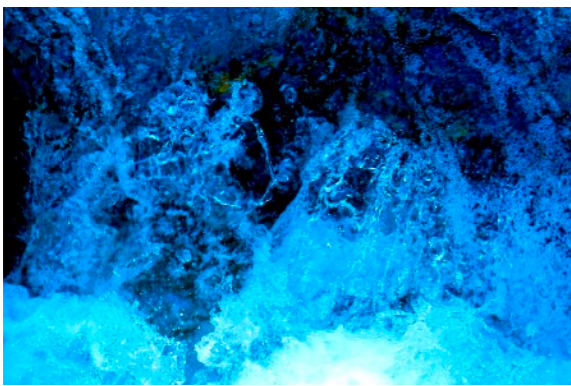
私にならぬ
私の如く

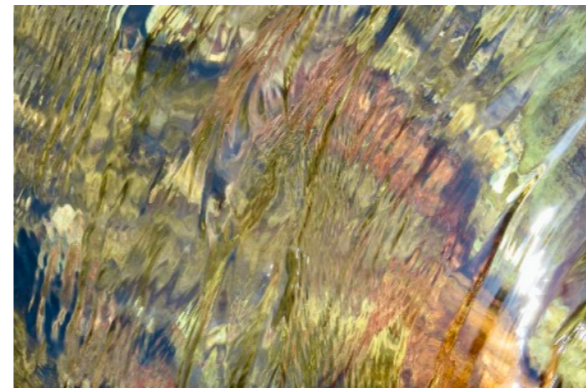
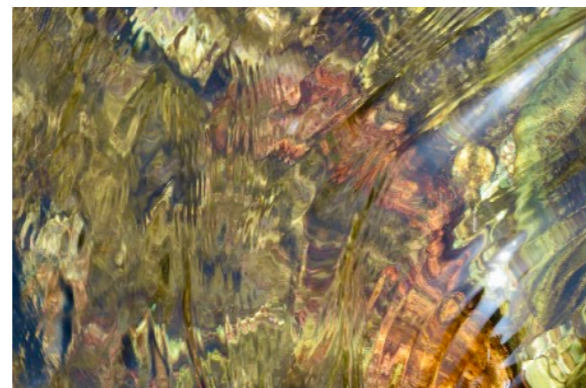
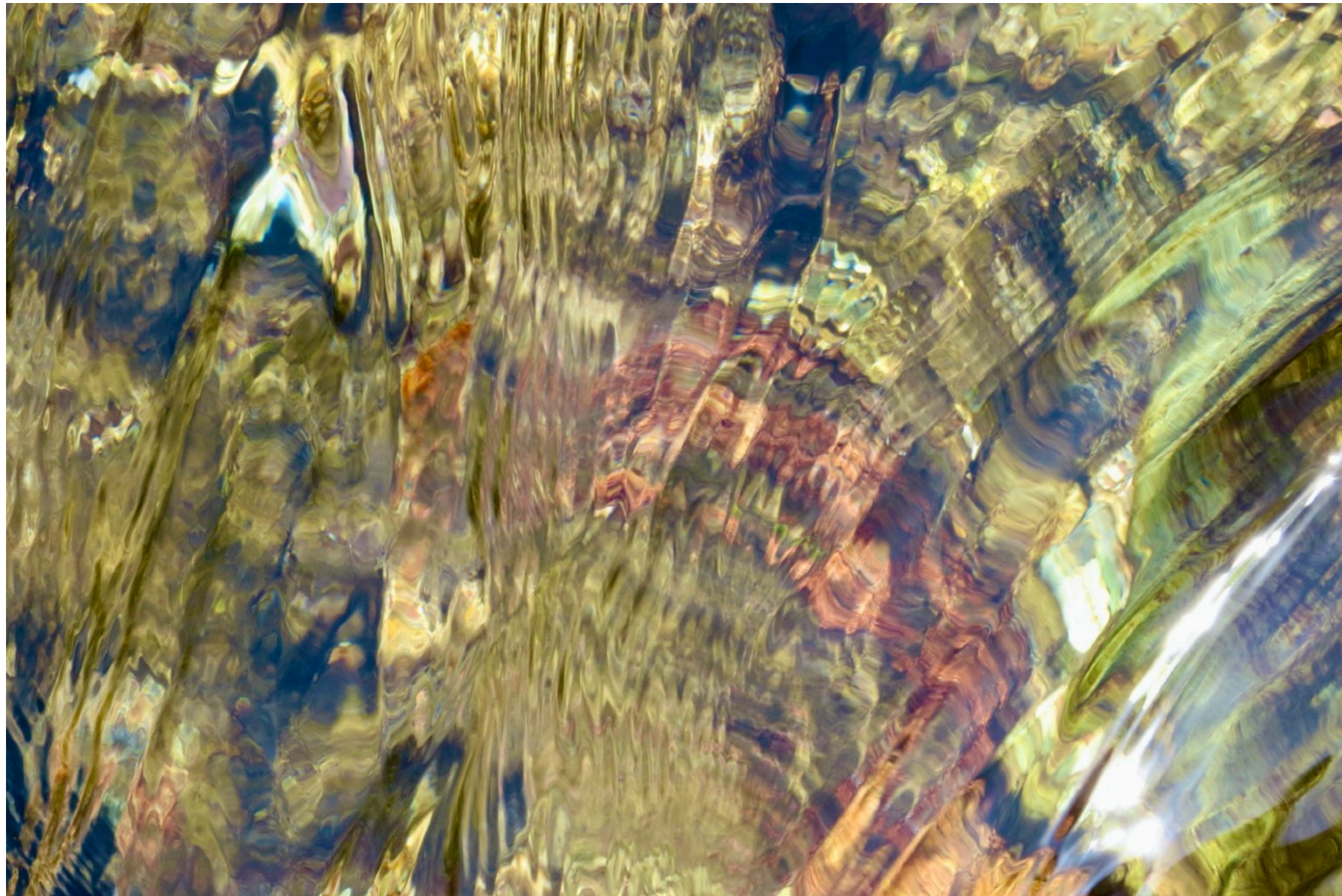
とうとうたったりたりら
たたりあがりららりとう

闇の彼方
鏡の奥で

時の深みから
響きはじめる声とともに

行方定めぬ力で
無と有の交替を
絶え間なく言祝ぎながら





※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

幾重にも
塗られた
心の色は

塗られる
たびごと
忘れられ

やがては
かつての
哀しみも

じぶんの
知らない
心と化し

哀しみは
怒りへと
姿を変え

燃え盛り
荒れ狂う
火水の如

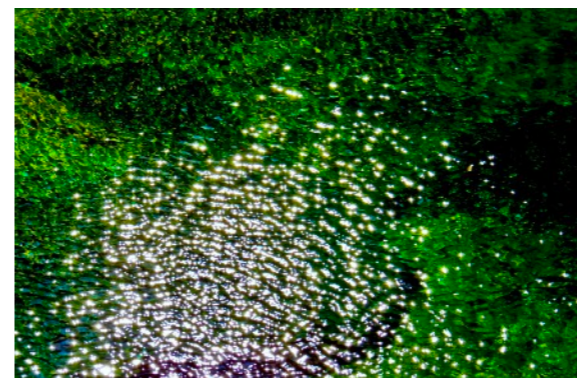
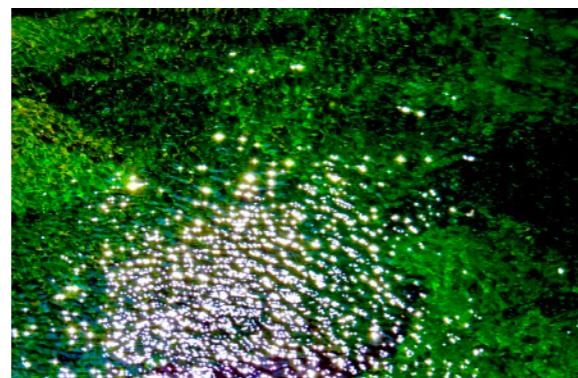
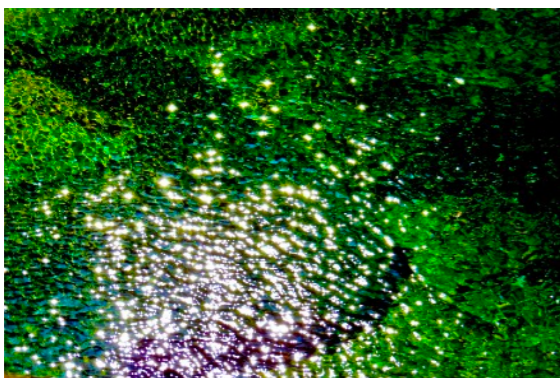
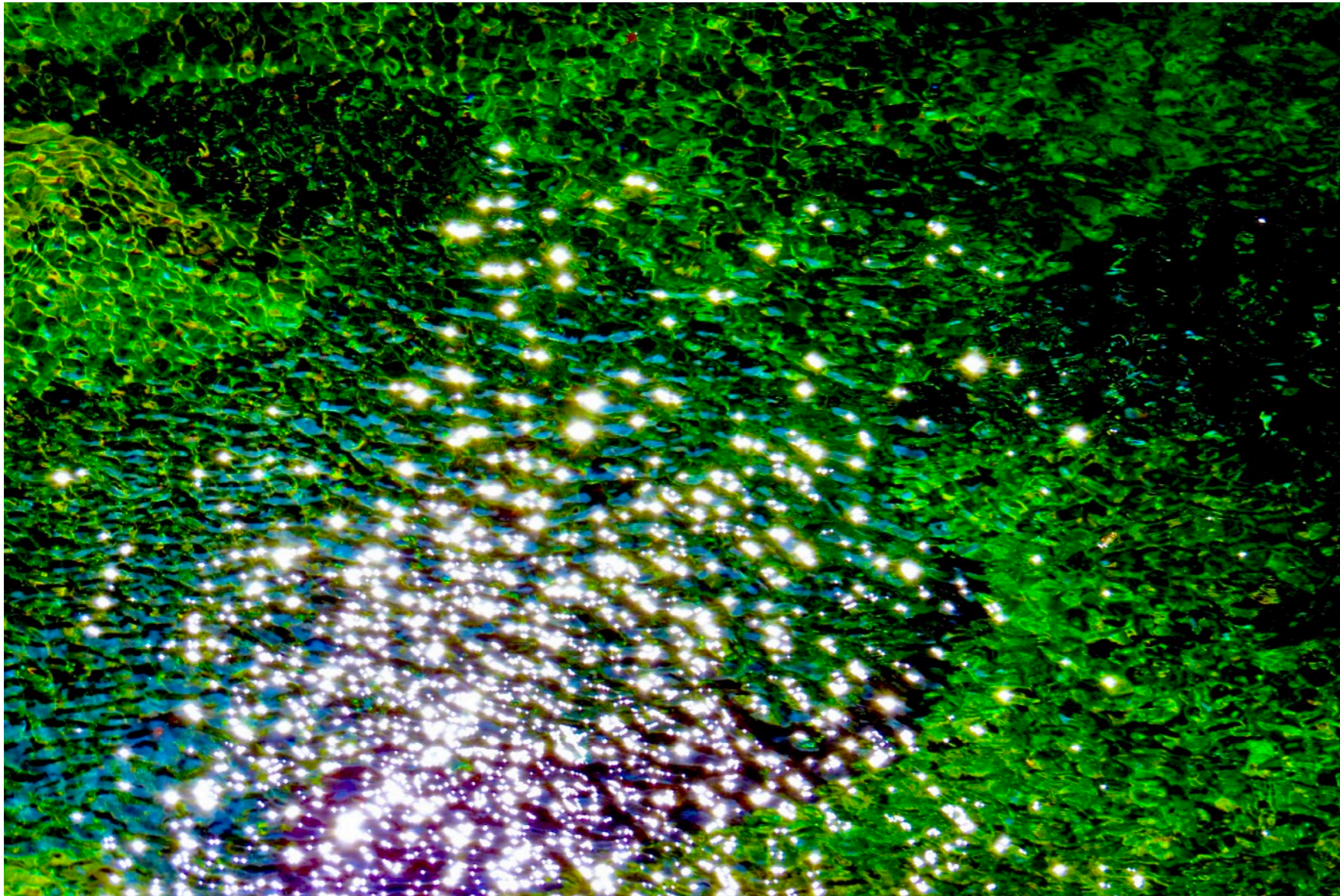
どこかで
じぶんに
襲い来る

幾重にも
塗られた
心の色よ

色と色の
重なるの
その果に

忘れられた
哀しみを
思い出す

その時は
訪れるの
だろうか



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

天使がいるから
悪魔が生まれた

天使が
悪魔と戦うとき

鏡のなかの
じぶんと戦っている

あなたがいるから
わたしがいる

あなたが
わたしと争うとき

じぶんのなかで
争っている

あるは
ないから生まれた

あると
ないは
矛盾しているようで

ささえあいながら
明滅している

生まれてくるから
死んでゆく

生は
死を拒めないが

死もまた
生を拒めない

愛があるから
憎しみが生まれる

どんなに憎んでも
愛はなくなるらない

愛は姿をかえて
生まれ変わりつづける



闇のなかで
光が咲く

光は
闇を求めるかの如く
闇から逃れるかの如く
激しくその手を
闇にのぼそうとする

闇が
光を求めているのか
光が
闇を求めているのか

光の花は
つかのま
激しく燦めき育ちながら
すぐさま
闇のなかへと消えてゆく

消えていった光は
どこへ行ってしまったのだろう
光を失った闇は
またもとのように安らっている



☆photopos-2797

2022.5.6



わたしが
わたしであるために

わたしは
わたしを広げ
どこまでも
わたしを超えて
ゆかなければならない

あなたという
はるかなところにまで
旅することができるように

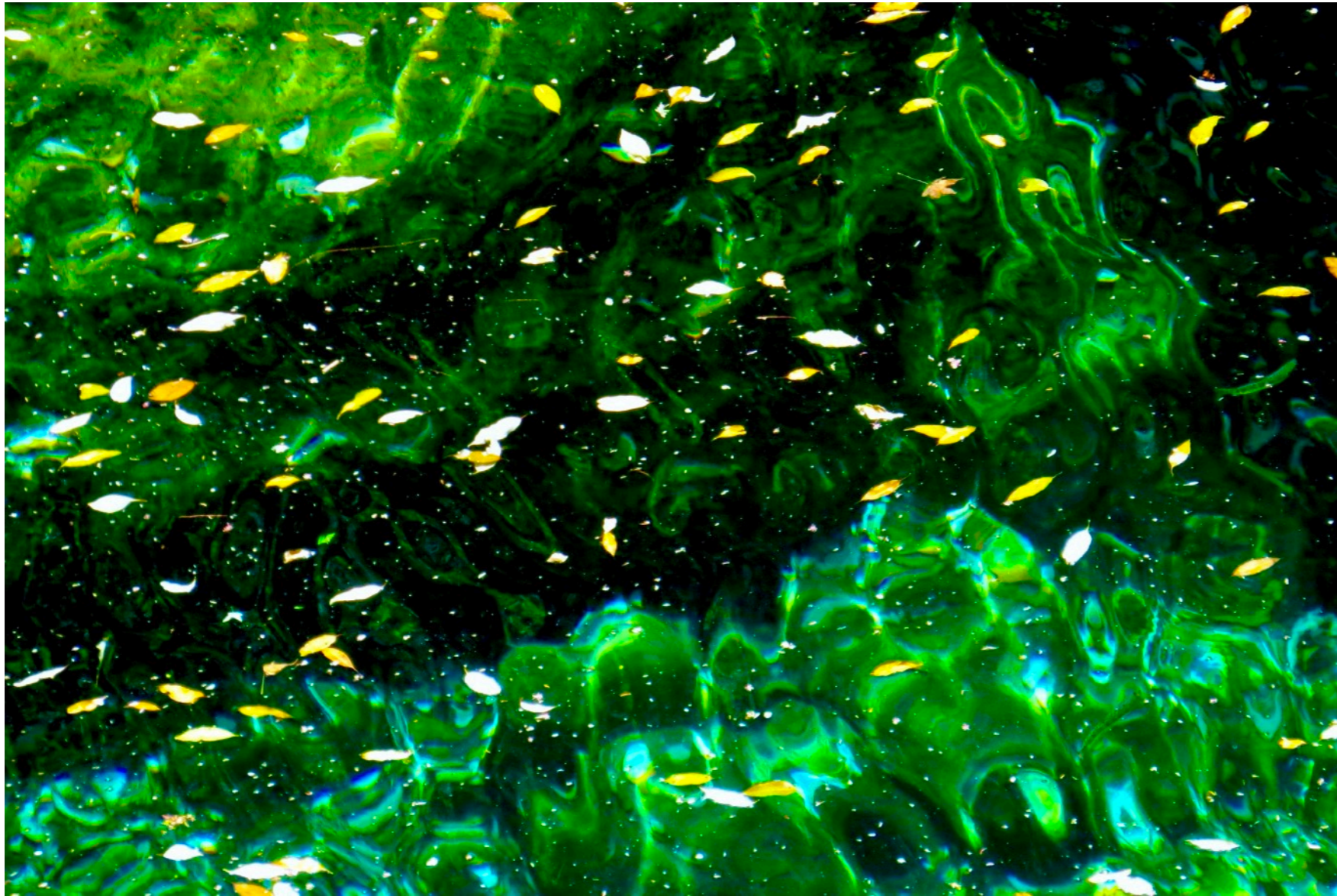
わたしが
わたしであるためのあなた
あなたを愛するためにこそ
わたしは生まれてきた

わたしが
わたしであるために

わたしは
わたしのすべてを燃やし
わたしのすべてを歌い
あなたを愛する



※愛媛県伊方町・佐田岬はなはな「はなはな祭り」／花火大会にて



この今は
同じ今じゃない

だれもが
じぶんだけの
心の今を
生きている

その今を
ともに生きることは
できるだろうか

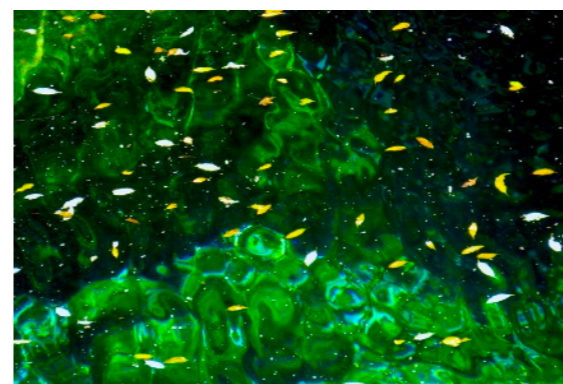
あなたの今を知るために
あなたの今を生きるために
あなたの時をたどる

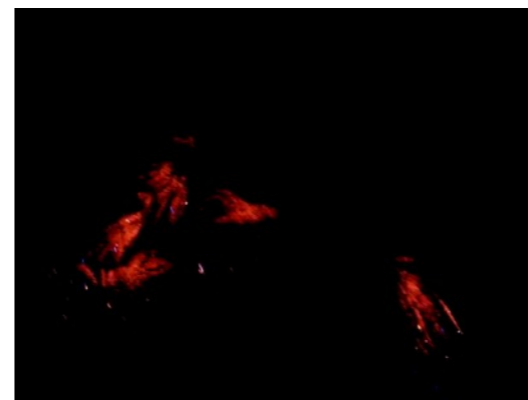
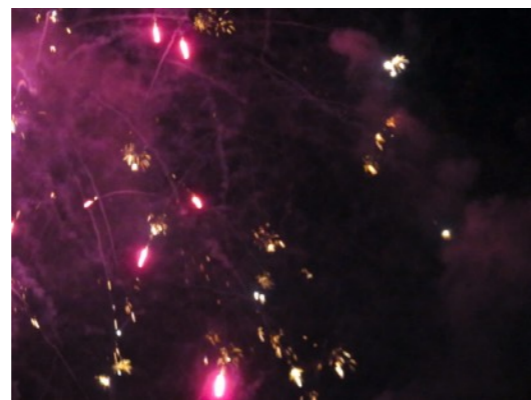
この歌は
同じ歌じゃない

だれもが
じぶんだけの
心の歌を
歌っている

その歌を
ともに歌うことは
できるだろうか

あなたの歌を知るために
あなたの歌を歌うために
あなたの声を探す





ただ
いる

無為でいる

なにもしないのではない
生きている
呼吸している
遊んでいる

為すことを
しないだけだ
為すときにも
為さないことで為す

無為でいるためにと
ために
があると
もう
無為ではなくなる

わたし
が
となると
無為は
姿を消す

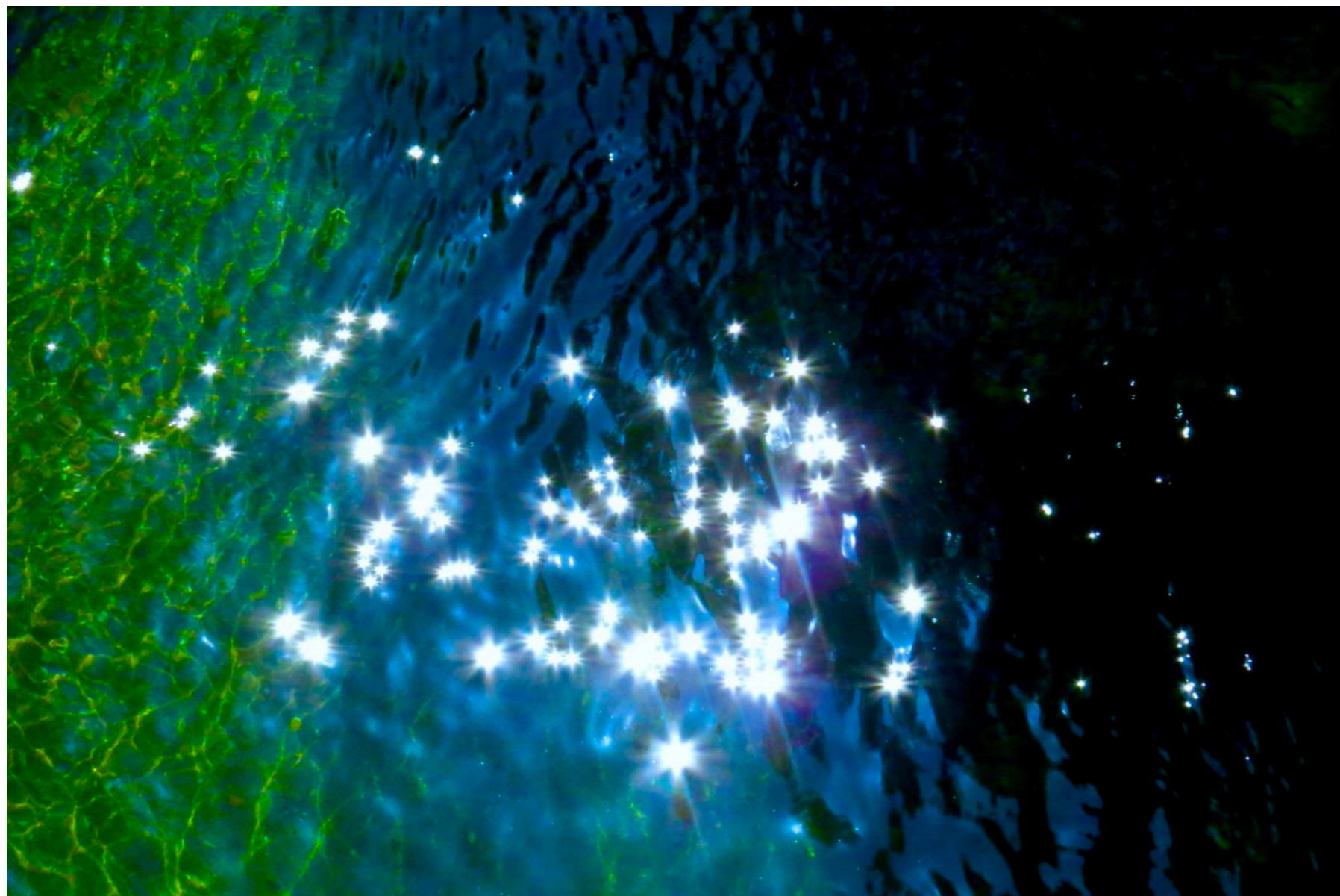
ただ
いる

ただ
ほど
むずかしいことはない

けれど
ほんとうは
なによりもやさしい

ただ
いる

宇宙が
ただ
遊ぶ
ように



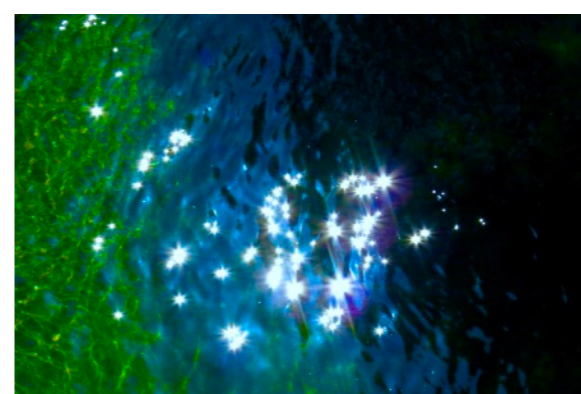
無は
無のままでは
いられない

無は
みずからに
穴を穿つことで
光へと開かれ

光もまた
光のままでは
いられず

光は
みずからに
死をもたらすことで
また無へと帰ってゆく

生と死は
そのようにして生まれ
終わることなくめぐりはじめる



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて